



「共創」を生ま出す

大田市教育魅力化プロジェクト
令和元年度活動報告書

大田市教育委員会
教育魅力化推進係

はじめに

この報告書は、大田市が進めてきた「教育魅力化」についての報告書です。教育魅力化は、島根県において少子高齢化が進み、県立高校の定員割れによる統廃合が問題化した時に始まりました。「県立高校」という枠を飛び越え、市町村がその地域における高校の価値を改めて認識し、地域や行政そして高校の人々が危機感を持って高校を「魅力的な学びの場」へと変えていきました。「魅力的な学び」とは、学校を社会に開き、多様な人びとと子どもたちが接する機会を作り、地域社会の中で子どもたちがチャレンジする機会を作り出す、というものです。これはあくまで一例ですが、AI時代の社会や仕事の変化にも対応する「新しい学力観」に根ざした島根の取り組みは、全国的に注目され全国から多くの子どもたちが「しまね留学」を始めています。現在、島根県では、高校にとどまらず、小・中学校や幼児教育の魅力化についての取り組みも始まっています。

大田市では、平成28年度より教育魅力化事業を始めました。この報告書に掲載されている教育魅力化コーディネーターたちが学校現場と地域の大人たちと行政を繋いでいながら、徐々に新しい取り組みが、ここ大田でも始まっています。もちろん、既に以前から地域と連携しながら、魅力的な教育を実践をしている学校もあります。そういった地域ならではの教育事業を発信し、より加速させていくのが「教育魅力化」のプロジェクトです。具体的にどのようなことをやっているのか知りたい方は、ぜひこの報告書をご一読ください。

参考資料①：「高校魅力化」とは…

- (どこで) ● **地域という実社会の中で学ぶ**
(手触りの実物未来社会の箱庭で学ぶ)
- (誰と) ● **多様な人々と学ぶ**
(地域の子ども、都会から来た子ども、外国から来た子ども、地域で挑戦する大人、都会から来た大人と学ぶ)
- (何を) ● **社会の縮図体験としての3年間を過ごす**
(自らみつけたテーマに対し自ら動き、失敗し、支援から学ぶ)
…という体験を通して

未来の社会をつくる“意志ある若者”を育む教育活動

参考：水谷智之「高校魅力化：島根県から全国へ」教育再生実行会議、2018年9月27日
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/jikkoukaigi_wg/kaikaku_wg2/siryou2.pdf

参考資料②：高校魅力化の効果

- ・高校魅力化により地域の**総人口は5%超増加**（2017年）。
- ・高校魅力化により地域の**消費額は3億円程度増加**（2017年）し、**歳入も1.5億円程度の増加**（同）。
- ・高校魅力化に伴う町村の財政負担を加味しても、3,000~4,000万円程度の**プラス効果**。（高校魅力化に伴う町村の**負担額の約1.8倍の歳入増加**）

参考：国内初、市町村の人口・経済への高校魅力化の影響が明らかに ～高校統廃合に伴い市町村総人口の1%が転出超過、高校魅力化により総人口は5%超増加～ 一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム
<https://prtnews.jp/main/html/rd/p/000000010.000035136.html>

参考資料③：大田市が進める「共創」を体現する教育魅力化

大田市の共創とは

めざす将来像の実現に向けて、子どもから高齢者まで、年齢、性別、職業、国籍などを問わず、さまざまな人が、一緒に楽しく夢を語り合いながらアイデアを出し合い、市民・事業者・行政など、“おおだ”に関わるすべての人たちが一緒に汗をかきながら、ひとつずつ形にしていくことです。

めざす大田市の共創のイメージ

- ・「こんなことしてみたい！」という時には“相談にのってくれる人”がいて“応援してくれる人”がいる。
- ・みんなで話し合いながら、みんなで協力して“やってみよう”という雰囲気がある。
- ・いきいきと生きる大人たちの横で、子どもたちが笑顔で遊んでいる。

参考：大田市共創のまちづくり行動指針 https://www.city.ohda.lg.jp/update_info/3038

大田市教育魅力化マップ <概要版>

遡摩高校



佐々木CO



ジョブシャドウイング



職業体験型 進路デー

大田高校



森下CO



地域探究学習



大田高校を考える会



西中×遡摩高 地域を考える

西中校区

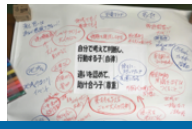
西中



新CO

仁摩小

温泉津小



コミュニティスクール ワークショップ

大田市教育委員会

学校教育課



福本主事

教育魅力化 推進係



西嶋CO

山村留学 センター



岡田PD

小・中学校等



魅力化の具体の創出



ふるさとキャリア学習

地域



魅力化の広報・関係づくり



おおだ共育共創ラボ



魅力化チームづくり



SNSでファンづくり



山村留学ブース出店

市役所の課を越えた連携



おおだ教育の日フェスタ



大田市教育魅力化統括プロデューサー 岡田 真理子

キーワード

#対話 #コミュニケーション #情報共有 #仲間

R1成果

- ・講演等にて教育とまちづくりの関わりをアピール
- ・第1回 おおだ教育の日フェスタの開催
- ・市役所内外での関わり増

教育魅力化の広報（取組紹介）と繋がり・関わりづくり

- 様々なところで教育魅力化の取組を紹介させていただき、その場（企画）と一緒に創る機会にもなった。
- ・大田市役所 政策企画課主催「100人で語る『共創』ミーティング」での事例発表（7月）
- ・公益社団法人日本青年会議所 第45回島根ブロック協議会の記念講演にて登壇（9月）
- ・中小企業家同友会 石見支部の9月例会にて講演（9月）
- ・「おおだ教育の日フォーラム」の実施。企画・運営、取組発表に携わる（2月）
- ・ローカルテレビにてCM放送（CM作成）→1・3月放送
- ・Facebookにて情報発信（教育委員会内で協力しながら更新）



統括
として

中小企業家同友会 石見支部様の例会では、例会の企画も共に行き、一方的な講演にならないよう工夫し、とても良い場を創ることができました。発表等アウトプットすることは、今の自分たちの状態を知り、どこに進んでいきたいのかを整理し、どうやったら相手に伝わりやすくなるかを考える機会になります。今後もこのような場を大切にしていきたいです。



←給食も
大好評！

第1回 おおだ教育の日フェスタの開催！ ～来場者4倍アップ110人→450人～

市内高校の魅力化が始まり、H29～30年度には「大田市教育フォーラム」を実施。発表と議論の場を作った。各回とも100人前後が参加。教育関係者や関心の高い人の参加が多かった。「フォーラム」とは対話・議論をしていく場をさすが、教育関係者以外の方には敷居が高くなってしまったのが課題となっていた。もっと発表の場・楽しむ場にしながら、より多くの人におおだの魅力的な教育の実践や成果、そこに関わる人・もの・ことを知ってもらいたいと考え、R1年度から「フェスタ」という形に変更。来場者は約450人と大きく伸びた。学校教育だけでなく、課を超えての取組発表・展示をすることで、広く多くの方に触れていただく機会としたことが数字に繋がったと考える。

統括
として

本来、私がこの事業の主担当をすべきだったところを仲間にフォローしてもらいました。市役所内・学校等を含めて、ここまで幅広い方々と一緒に大きな場を創っていくことは簡単ではありませんでしたが、人との関わりをとおして創る過程の大切さを学びました。次年度はより良いものにしていきたいと思っています。

市役所の課を越えた連携

昨年度よりも組織的な関わりが増えた。今年度は他課からのアプローチが多かったが、この繋がりを生かし、教育魅力化に市役所の様々な課が取り組んでいく雰囲気を作りたい。

- ・大田市役所 政策企画課主催「100人で語る『共創』ミーティング」の企画協力
- ・大田市「共創のまちづくり推進指針策定プロジェクトチーム」に参画。
→第2次大田市総合計画の基本姿勢である「共創」を具現化していくために、「共創のまちづくり行動指針」を策定。
- ・市内県立高校の卒業前の3年生に向けた、市からの案内の取りまとめ
→政策企画課より「大田市人会」の入会案内
→まちづくり定住課より定住PRサイト『どがどが』への会員登録の案内

R2年度へ向けて

— 大田の教育魅力化はどこへ向かっているのか —

この問に答えを出すこと。つまり、「教育魅力化」という言葉ではなく、おおだならではの別の言葉を導き出し、より具体的な目標をもつこと。そして、それをもとに学校の先生方やコーディネーターが現場で動きやすい状態になることが自分のミッションだと考え、この1年間やってきました。とても難しい課題で、仲間にも助けられながらモヤモヤを言語化することで1つ先が見えることを繰り返し、最後の最後に少し兆しが見えました。次年度は遼摩高校に戻りますが、今年度創ってきたことが次へ繋がるように動いていきたいと思っています。

その他の活動

- ・大田市内県立高等学校支援連携協議会 事務局担当
- ・市内高校2校合同事業担当（合同説明会、部活動交流活動）
- ・大田高校、遼摩高校のキャリア教育にて、高校と市役所間のつなぎ役



大田市教育魅力化コーディネーター 大田高校担当 森下 真穂

キーワード
#地域×学校 #仲間（チーム）作り #学び #探究

R1成果

- ・総合的な探究の時間 プログラムの深化
- ・コンソーシアム設立に向けてPJチームの発足・会議実施
- ・ダイコウラボの運営・関わる生徒・大人の増加

地域の方や卒業生たちと授業プログラムを共創！

大田高校では様々な人と共創した授業設計に挑戦。共創することで学校に閉じず、多様な価値観に触れる機会や地域の魅力や課題を知る機会が生まれました。

- 事例1 「地域探究学習」地域のみなさんと先生が打合せを重ね、授業設計
→高校生が地域課題解決アイデアを実際に行動に移し地域に貢献！
- 事例2 「ダイコウワー」年代を越えた大高卒業生が集まり、授業設計
→高校生が多様な大人に出会い、自分自身に向き合う機会に！

取り組みを始めたH28年からの変化

- 地域探究学習の時間
5時間（H28）→26時間（R1）
- 地域の方の関わる総数
1名（H28）→約100名（R1）
- 内容について
課題解決案の提案（H28）
→課題解決案の実行まで（R1）



商店街HP作成に向けてヒヤリング調査の様子（2年生）

コーディネーターとして

共創を生み出すために、人と人をつなげるのがコーディネーターの仕事です。しかし、最初からつなげることができたわけではありません。学校で時間をかけて対話し、挑戦を重ねて価値・意義共有をしてきたからこそ変化が生まれてきました。

学校も地域も 共に「大田高校のこれから」を考える

大田高校は「社会に開かれた学校教育」を目指して、学校と地域の協働体制づくりを行っている。今年度は、まずは学校の現状を把握するために、学校・生徒・地域とたちと意見交換を行い、それぞれの立場からの意見や思いを共有した。引き続きプロジェクトチームを中心に、様々な意見をもとにこれから大田高校が目指す姿や取り組みを整理していく予定である。

R1年度の取り組み

- 12月 第1回 大田高校を考える会（職員会議にて）
プロジェクトチームの発足
- 1月 第2回 大田高校を考える会
- 2月 第1回 地域意見交換会
- 3月 生徒企画「大高を考えよう」
第3回 大田高校を考える会



育てたい生徒像について話し合う先生方の様子（職員会議）

コーディネーターとして

大田高校に関わる様々な人の思いを重ね合わせていくために、様々な立場の人の声を拾える場をつくることを先生たちと大事にしてきました。手探りの中進んでいる状態ですが、よりよい未来を信じて、みんなで大田高校の明るい未来を描いていきたいと思ひます。

高校生も大人もみんなで育つ！おおだ共育共創ラボ

おおだ共育共創ラボでは普段の学校生活の中で出会えない、大人との出会い、語り合い、応援し合える場づくりを行い、「高校生も大人もともに育つこと」を目指している。大田高校で行う「ダイコウラボ」は、「やってみたい」「解決したい」という思いを形にしたり、ただただ話したいテーマについて話したり、自由に選べる学びの場。ダイコウラボにくる高校生は互いに学び合い、大人からの刺激を受け日々変化・成長する様子がみられる。また参加する大人も高校生に刺激を受け、エネルギーをもらえる場になっている。

R1年度の取り組み

- ダイコウラボ（開催約20回）
参加生徒総数：約40人
参加大人総数：約30人
- 課外ラボ（開催2回）
各参加生徒数：約30人
参加大人総数：約20人
関係事業所：(株)MIC、公民館



「しごと」をテーマに高校生と地域の大人が対話している様子（課外ラボ）

コーディネーターとして

おおだ共育共創ラボでは高校生、地域のみなさんが持っている「ワクワク」や「モヤモヤ」を大事にしています。高校生がよりのびのびと「学びに向かうことができる場をつくるために」や「高校生がもっとワクワクできる地域の在り方」を地域の大人のみなさんと考え続けます。

R2年度へ向けて 「点を線に、学校づくりの1年に」

コーディネーターとして活動を初めて来年度で丸4年が経ちます。新たな取り組みをとおして「共創」できる仲間が増え、少しずつ変化を生み出してきました。しかし、まだ大田高校の目指す方向性がみえていないことが学校の課題です。R2年度は現在取り組んでいることを深化するとともに、大田高校の「ビジョン」をつくり、動く1年です。コーディネーターとして、学校の動きを知ってもらえるよう「発信」すること、関わる「仲間」を増やすこと、関わる人たちの「思い」を形にすることを大事にしながら、さらに多くの人と「共創」し、更なる変化に繋げていきたいと思ひます。

【その他の活動】

- ・生徒募集（地域みらい留学 | 学校説明会）
- ・広報（つむぎ）

【大田外の活動】

- ・しまねマイプロジェクト ファシリテーター
- ・島根大学コーディネーター養成講座 サポーター





大田市教育魅力化コーディネーター 邇摩高校担当

佐々木 梢

キーワード

#10月着任 #邇摩高校の魅力化を知る #つながる

R1成果

- ・邇摩高の内部の良さを体感
- ・西中学校×邇摩高 地域との関わりについて考える
- ・進路デー27社→35社へ

邇摩高校ジョブシャドウイング実施へのサポート

「ジョブシャドウイング」とは90年代後半からはじまった米国で定着している職業教育の一つ。中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、影のように張り付いて職場での仕事ぶりを観察する、というもの。あくまでもさまざまなキャリア選択が存在することに気づくためのキャリア探索活動であり、即場で実務体験を積む「インターンシップ」とは目的が異なる。

【参加企業】

IT企業6名
行政2名
まちづくり・若手経営者5名
地元企業4名

【参加生徒】

邇摩高校2年生
ビジネス系列16名

令和元年度は、株式会社ポートと大田市役所産業企画課の主導のもと実施した。邇摩高校ではビジネス系列の先生が担当。年度当初から準備が進められ、10月に校内事前学習会、11月に当日を迎え、12月に振り返り会を実施した。振り返り会には10社から参加があり、企業の思いや高校生へのエールなど熱く語っていただいた。新聞社2社にトータル3回、記事掲載をしていただいた。



当日の様子
株式会社エムソフトにて

コーディネーターとして

着任後すぐに取り組んだジョブシャドウイングを通して大田の企業を知る機会となりました。大田を愛する大人達が高校生に大きな可能性を感じてもらいました。高校生も大人との対話で刺激を多くもらいました。ある生徒達はこの経験を深めていき、探究型学習「マイプロジェクト」として2月に「しまね未来共創フェスタ」にて発表しました。

邇摩高校「進路デー」 新規企業8社で過去最大に！

職業体験型のキャリア教育イベント「進路デー」。進路について考える一日である。午前中は地元で活躍する企業人を邇摩高校に招き、職業体験や進路選択の話をしていただき、午後は就職希望者・進学希望者に分かれての進路ガイダンスを行う。

各企業に体験を含む企業・職業紹介をお願いし、それぞれの企業には高校生が職業をイメージできるよう、高校の敷地内でできる体験を考えていただいた。実際にチェーンソーで丸太を切る体験やプログラミング体験など、昨年からの引き続き準備してくださっている企業他、今回は新たにユニック車の操縦体験やアスファルトの打設などをご提案いただいた。

※3月実施予定だったが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止

【参加予定企業】

IT 4社 医療3社
金融3社 建築3社
公務5社 製造7社
森林1社 美容1社
法律1社 卸業1社
福祉保育4社
食品製造2社
合計35社
そのうち大田市内31社



進路デー 昨年度の様子

コーディネーターとして

各企業様と打ち合わせをさせて頂きました。「高校生に仕事の良さを知ってほしい」という熱い思いを持って関わってくださり、地域にある高校として期待されているのを強く感じました。邇摩高の卒業生にも多くお会いする中で学ばせて頂くことも多かったです。今年度は大田市の企業様にも声をかけさせて頂き、高校生が興味を持っている分野の職種を新たに開拓できました。

R2年度へ向けて

コーディネーターとしてお仕事をさせて頂いていると「邇摩高生は挨拶がいいよね」「農業の野菜や加工品がおいしいよ」など多くの賞賛の声を頂きました。自分が褒められているわけではないのですが自分の事のように嬉しく感じました。

系列や部活動の他、邇摩高フェアに代表されるような行事を通して高校生から大人へと成長していく過程を感じました。主婦からコーディネーターとなり、今まで知らなかった邇摩高の魅力や山を発見しました。野菜を育て、商品開発をし、ドレスや神楽衣装を作成する学校が島根県内にあるなんて知らない人は沢山いると思います。もっと多くの人に邇摩高校の魅力を知ってほしいと思いました。

短い間でしたがありがとうございました。

その他の活動

- ・FB・HPの記事作成
- ・池田小商品開発→邇摩高フェア
- ・西中でのアンバサダー授業

新 和也



キーワード

#異校種間連携 #ふるさとキャリア学習
#コミュニティスクール

R1成果

- ・大田西中 遼摩高生と地域について考える時間の実施
- ・温泉津小 職場体験学習のサポート
- ・仁摩小 学校運営協議会でのワークショップ

大田西中 遼摩高生と地域について考える時間を企画

西中の2年生の総合的な学習の時間で、遼摩高の3年生9名・先生2名・コーディネーター1名を招き、遼摩高校の地域に向けた取組について聞く時間を実施。遼摩高生が取り組んできたこととそこから得られた経験、思いを自分の言葉でしっかり語る様子を中学生が見聞きする機会になった。また、遼摩高校の取組を聞いてどのような感想を持ったか、中学生が取り組むヒントになることはないかを班ごとに意見交換した。各班に1名ずつ遼摩高生(1班にはコーディネーター)が入り、中高生がともに考える場をつくらうとする空気が生まれていた。



中高生の話し合いの様子

コーディネーターとして

当初は、遼摩高校が毎年開催している学習成果発表会への中学生の参加を予定していましたが、別の形式をとることとなり、中高生双方にとって良い時間になるよう、中高の先生方とそれぞれの視点からの意見を出し合いながら、形を模索しました。そこで決定した当日の流れの中では、中高生による話し合いの部分の進行を担当しました。

温泉津小 初の職場体験学習をコーディネート

温泉津小の6年生が総合的な学習の時間を使い、初めての試みとなる職場体験を実施した。体験は2日間に分けて実施。1時間半程度の仕事体験の後、事業所の方から仕事に関する話を聞いた。温泉津小校区にある神楽面工房、旅館、農園、保育所から2か所を選択する形式をとったことで、幅の広い体験となった。また、受入事業所の皆さんから仕事のやりがいに加えて、そもそも「働く」とはどういうことなのかをお話し頂くことで、子どもたちが今の生活や将来のことを考えるきっかけをつかった。



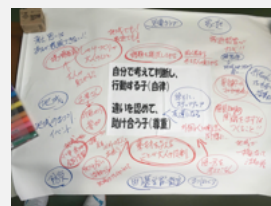
体験中の様子(旅館施設清掃)

コーディネーターとして

職業体験を発案された6年生担任の先生と、形式やねらいについて確認し、受入事業所の方々と事前打合せを行い、企画を調整していきました。実施後にも、各事業所の方々より感想や意見を頂きました。地域の方とねらいや思いを共有することで、関わる大人が当日の体験から事後の振り返りまで同じ視点を持ち続けることができました。

仁摩小 学校運営協議会でのワークショップをサポート

仁摩小のコミュニティ・スクール化を進める学校運営協議会で、「仁摩小の子どもたちに育てたい力」をテーマに、ワークショップを行った。育てたいと考えている力を学校から提示し、それに向けて大事にした考え方や、実現するために必要な機会や場について話し合った。全体ではなく少人数での話し合いにすることで、偏りなく委員の皆さんからの意見を聞くことができた。地域と学校が一緒になって、まちの子どもたちを育てていく目的を持つ協議会の意義を体験してもらった機会となった。



ワークショップのまとめ

コーディネーターとして

教育魅力化係の福本主事と連携して、協議テーマや形式について学校と打合せを行いました。当日は、グループ協議での進行や意見の整理をしました。また、協議会で話し合う内容について、事前にまちづくりセンターや公民館等へ出かけて、意見を伺い、当日の円滑な話し合いにつなげました。

R2年度へ向け

R1年11月から、大田西中校区の3校にて勤務を開始し、上記のような活動に、各校の先生方や地域の方々と一緒に取り組みました。温泉津小の職場体験では、受け入れてくださった各事業所の皆さんからフィードバックを頂いた際に、目線を共有できていることを実感しました。このような機会を増やしていきたいです。また、西中×遼摩高の取組から、年代の異なる児童や生徒が同じ時間を共有する意義も改めて感じるようになりました。3校を行き来する形態の中で、改めてミッションや動き方の最善を探りながら、今年度の取組を活かして、次年度も活動していきたいと思っています。

その他の活動

- ・今年度の西中校区のふるさと学習の情報共有をする場の開催
- ・市内中高野球部交流事業の企画運営
- ・大田高校1年生「DAIKOU HOUR!」企画運営に卒業生の一人として参加



大田市教育魅力化コーディネーター 山村留学担当 西嶋 一泰

キーワード

#情報発信 #ファンを増やす #連携推進

R1成果

- ・長期留学生 H30 7人 → H31 11人 → R2 13人
- ・夏の山村留学 5/15募集 → 5/27満員御礼 65名
- ・地域みらい留学、森のようちえん等と連携

SNS活用でファンを獲得 山村留学生数UP!

H28年7月の西嶋着任後より運用するFacebookページで多くのファンを獲得している。Facebookページとしては、年間延べ約50万ビューを記録。いいね（購読者）数は全国の山村留学関係施設で1位となっている。夏休みや冬休みの短期の申込みも人気となり、R1年度は夏の山村留学に申込が殺到。約2週間で定員となった。長期の山村留学の問い合わせや体験留学数も増加。H29-30は選考方法の検討により人数減となっていたが、R1-2は新入園希望者も増加し、人数増となった。

学園生数（継続／新入）

H28	10人（5人／5人）
H29	8人（5人／3人）
H30	7人（5人／2人）
R 1	11人（4人／7人）
R 2	13人（8人／5人）

※R1-2で人数増



いいね（購読者）数1100人以上
山村留学関係で日本一!

コーディネーターとして

西嶋の副業でもあるライターや映像制作者としての技術をフル活用し、記事・チラシ・映像制作を行いながら山村留学センターのPRを行いました。今年度は西嶋の投稿は少なくし、指導員による投稿を増やしましたが、アカウントが育ったので多くのいいね！がつく状態を維持しています。短期山村留学の際には最後の夜にこれまでの活動の様子を動画にまとめた映像を放映するなど、スピーディーな映像編集・情報発信を様々な場面で心掛けています!



山村留学ブース



東京でのトークイベント

地域みらい留学フェスタ等関係団体と連携進む

島根県立高校の生徒全国募集「しまね留学」の合同説明会に、「小・中学生のしまね留学」としてH28年以来ブース出店させてもらっている。H30年度からは、一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォームが仕掛ける「地域みらい留学フェスタ」とも併催となり、盛り上がりを見せる。山村留学ブースは毎回西嶋単独で設営・運用し続けているため、横の繋がりもでき、今年度は12月にプラットフォームの水谷智之共同代表らと東京でトークイベントに登壇できたことは、連携を強化する上で非常にいい機会となった。ブース運営のノウハウが蓄積され、市内イベント等でのPRも効果的に実施できた（さんべ祭でブース訪問200人以上）。

その他、国立三瓶青少年交流の家との連携を三瓶協育ネットワークを通じ進めている。また、R2年10月末開催予定の森のようちえん全国交流フォーラムの実行委員会にもなり、開催に向け県内の自然教育を進める団体との連携を推進している。

R1山村留学ブース出店実績

- 04/17 基礎体験説明会@島根大学
- 06/22 地域みらい留学フェスタ大阪
- 06/23 地域みらい留学フェスタ福岡
- 06/29 地域みらい留学フェスタ東京
- 09/08 未来マップ受験相談会東京
- 09/15 しまねUIターンフェア大阪
- 10/05 親と子の受験相談会東京
- 10/14 しまねUIターンフェア広島
- 10/19 さんべ祭@三瓶交流の家
- 10/20 さんべ祭@三瓶交流の家
- 12/04 地域留学トークイベント東京
- 02/08 おおだ教育の日@大田

コーディネーターとして

大田の山村留学のファンを増やす活動をしています! しまね留学を応援する東京で私塾を経営する尾糠清司氏（川本町出身）は、何度もセンターに足を運び塾関係者を呼び込んでくれました。また隠岐島前や雲南市のコーディネーターらがセンターで自主研修会をする企画も実現。森のようちえん関係者も山村留学を視察するなど、コーディネーターとして動いた私に様々な人が繋がり、そこから山村留学の面白さに繋ぐという動きができています。

R2年度へ向けて 大田の山村留学の持続可能な広報

西嶋が推進してきた山村留学センターの広報ですが、来年度が一つの区切りとなります。今まで西嶋単独で行っていた広報体制を引継ぎ可能なものにし、他の人が発信しても多くの人に情報をみてもらえるようなものにする仕組みをつくっていきたいです。

山村留学センターのプロモーションビデオの作成や、山村留学ハンドブックの作成、ボランティアの安定的な獲得、次のコーディネーター人材の募集獲得など、取り組むべきことは多いですが、一つずつ着実に実施していきたいです。

ただ、基本的なテーマとしては変わらず「山村留学のファンを増やす」で一貫して動いていきたいと思えます!

その他の活動

- ・山村留学関係の広報物デザイン・制作
- ・教育魅力化関係の広報物デザイン・制作

業務外での活動

- ・ライター・映像制作者・リサーチャー
- ・島根県立大学非常勤講師
- ・一般社団法人しまね協力隊ネットワーク理事
- ・三瓶のブックススペース「はらっぱ図書室」運営
- ・日本財団「海の祭ism」プロジェクト設計運営

大田市教育魅力化推進係派遣社会教育主事

福本 修司

キーワード

#持続可能なチームづくり #最後尾からのトップランナー #派遣社会教育主事の可能性

R1成果

- ・大田高、邇摩高コンソーシアム構築に向けて始動
- ・コミュニティ・スクール立上げ R1:6校 → R2:7校
- ・特色ある「ふるさと教育」の構築



「教育」というフィールドで「共創」を生み出すチームをつくる！

大田市が配置している魅力化プロデューサー（PD）・コーディネーター（CO）は現在5名。それぞれが現場を持ち、それぞれがミッションを持ちながら仕事を進めている。その具現化に向けてビジョンを共有しながら、チームとして活動できる組織づくりを自分のミッションとして設定。ミッションを達成するためにこれまで動いてきた内容は・・・

- 大田市の教育魅力化の方向性と大まかなビジョンの見える化
- 週一の魅力化ミーティングを活用し、各COの活動内容の把握と方向性の確認、価値づけ
- プレイヤーの一人としてCOの活動に積極的参加
- 各COが創出した具体の姿をfacebook等を活用し、大田市役所内外に広報



ONE TEAM で魅力化を推進します！

社会教育
主事
として

教員籍の派遣社会教育主事として、一番のミッションは人を育てることであると思って仕事をしてきました。今のポジションというならば、魅力化COが自分のミッションを明確に持ち、その具現化に向けて進んでいくことができるように、また、具現化したことにしっかりと価値づけをし、自信をもってさらに先へ進んでいくことができるように伴走してきました。

魅力化の具体の創出！（基本的に伴走です！）

大田市で進める「ふるさとキャリア教育」について、今年度新たな動きが生まれた。「池田小児童×邇摩高生徒」「大田小児童×大田高生徒」「大田西中生徒×邇摩高生徒」といった学びのコラボレーションである。異校種の子どもたちが、ともに学びを創造することでWIN×WINの関係性の上で深い学びを生み出すことができた。

また、おおだ共育共創ラボにおいては、オーナーとなるCOとともに、方向性を決め、具体の創出に向けて活動を重ねた。そのことと相まって、高校生の成長が著しく、高校生の新たなプロジェクトが生まれたり、高校生の自主的な活動が生まれている。

この取組を持続可能なものにしていくための理論整理や、体制の構築が急務である。

- 価値共有と具体のイメージづくり
- WIN×WINを生み出すコーディネーション



池田小児童×邇摩高生徒による学びの共創！
オンリーワンのねぎ味噌づくり！



社会教育
主事
として

このことについても、COと価値共有をしたうえで、基本的にはCOが具体を創出していくイメージです。時にはプレイヤーとして現場に立ち会い、そこにかかわる様々な大人・子どもに対して活動の価値づけをおこなうことを大切にしてきました。その結果、活動にかかわった人たちが、価値ある活動の主体者であるという認識を生み、活動や事業の持続可能性につながっていくと信じて取組を進めてきました。

R2年度へ向けて 願い・・・

大田市で進める教育魅力化事業は、大田で育つ子どもたち一人ひとりの生きる力をはぐくむ取組であるということは間違いありません。さらに、「共創」をベースにしながら取組を重ねるこれらの活動を進めていくことは、大田市が掲げる「第2次総合計画」に示される大田市の姿を、教育というフィールドやコンテンツを使いながら具現化していくことです。

教育の魅力化の取組が市役所内でこのように認識されるよう、他課との連携・協働した学びの場の創出や、成果と価値の情報発信については、今まで以上に意識をもって取組んでいく必要があります。

派遣社会教育主事の役割・・・

基本的に、派遣社会教育主事の働き方としては伴走者として具体を生み出し、ボトムアップを図っていくことであると考えている。

そのためには、身の回りで起こっていることをその価値も含めてきちんと把握し、全体で進めたいビジョンをしっかりと持ったうえで整理やひもづけができることが必要である。

プロデューサー、コーディネーター、プレイヤーを場面によって使い分けながら、伴走していくことが重要である。

教育魅力化用語解説

【教育魅力化コーディネーター】 島根県における「教育魅力化」事業のキーパーソン。県内では50人以上のコーディネーターが教育魅力化のために活動中。ただし、活動内容や雇用形態は様々。学校の総合的な学習の時間に関わったり、学校経営そのものに重要な役割を果たしたり、部活動や寮中心に活動するコーディネーターもいます。雇用形態も、地域おこし協力隊、集落支援員、嘱託職員や業務委託等様々。大田市の場合は、事業開始時の平成28年度当初は大田市の地域おこし協力隊として採用され、現在は嘱託職員、令和2年度からは会計年度任用職員として活動しています。市町村の雇用ですが、席は各学校にある場合が多く、行政・学校・地域の間を奔走しています。ちなみに略称はCO。

【教育魅力化統括プロデューサー】 島根県が教育魅力化を推進するにあたり、高校で起きていた魅力化の取り組みを市町村全体で小・中学校等に広げていく役割を担って設置されたポジション。コーディネーターが現場で具体的なアクションを担う役割が多いことに対して、プロデューサーは後方支援や行政や学校と事業のビジョンやデザインを行っていく動きをします。

【派遣社会教育主事】 社会教育の専門家。地域や公民館等と連携し、その活動のサポートやアドバイスなどを行うポジション。多くの場合は学校の教員が、そのキャリアの課程で資格を取得する。島根県は活動する社会教育主事の数が多く、県から市町村に数名の社会教育主事が派遣されています。大田市の福本主事の場合は、珍しいケースで学校教育の範囲でもある「教育魅力化」の推進を任務として県から派遣されています。

【高校魅力化コンソーシアム】 和訳すると共同事業体。島根県が推進する高校魅力化事業における用語。目標やビジョンを、地域の住民や市町村、小・中学校、社会教育機関、地元企業等と高校とが主体的・創造的な対話を行いながら協働で策定し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」をつくるための、協働体制。簡単にいえば、高校経営を、高校だけではなく、地域のいろいろな人を交えてやる体制のことです。

【コミュニティ・スクール】 小中学校において、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。CS・学校運営協議会とも呼ばれます。高校におけるコンソ

ーシアムで構築される協働体制とも重なる部分が多い制度です。

【一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム】 隠岐島前高校の高校魅力化に取り組んだ岩本悠氏が日本財団の支援を受けて立ち上げた団体。教育魅力化の島根モデルや地域留学のプログラムを全国へ広げていく活動をしています。島根県教育委員会とも連携し、事業を推進中。

【しまね留学】 島根の県立高校を中心に行っている生徒の全国募集事業。一部私学や小中学生対象のものもある。東京・大阪等で説明会を開催。近年はプラットフォームが主催する全国の公立高校の生徒全国募集イベント「地域みらい留学フェスタ」と併催されています。

【山村留学】 1968年に長野で始まった都市と農村の子どもたちの交流事業。大田市では1996年から小中学生向けの山村留学事業を行っています。夏休み等に行われる5日間の短期山村留学や、北三瓶小中学校に転入し1年単位で自然体験活動を行う長期山村留学事業を実施しています。

【ふるさとキャリア教育】 大田市が推進する小・中学校における教育事業。地域の教育資源を活用し、子どもたちの地域づくりに向かう意欲の高揚につなげていく活動。

【キャリアパスポート】 文科省が推進する小中高で一貫的に行われるキャリア教育事業。子どもたちが自分のキャリア意識を常に振り返ることのできるポートフォリオ（ノート）を持つことで、キャリアに対する考え方や意識を向上させる。

【子どもの育ちと学びのめやす】 大田市が策定した子ども達の『生き抜く力を育てる』ために、0歳から18歳までの子育てについてのめやす。

【探究学習】 主体的な取り組みを通じた自ら学び自ら考える力の育成。いわゆる「アクティブ・ラーニング」の手法の1つ。子どもたちが課題を見つけ、解決法を考え、発表する一連の活動を指します。

【異校種間連携】 高校と中学校、小学校と高校など、種類が異なる学校がその垣根を超えて連携すること。大田市では瀬摩高校と大田西中、大田高校と大田小などで連携した取り組みが始まっています。

これまでの大田市教育魅力化

※コーディネーターの動きを中心に

- 平成28年 2月 大田市教育ビジョン基本構想策定
- 平成28年 7月 大田市初の教育魅力化コーディネーターを4名採用。
それぞれ教育委員会・大田高校・瀬摩高校・山村留学センターを担当。
岡田コーディネーター・森下コーディネーター・西嶋コーディネーター着任。
- 平成28年 9月 山村留学センターWebサイト・Facebookを開設・運用 ～現在
- 平成28年10月 瀬摩高校 Facebookを開設・運用 ～現在
- 平成28年11月 山村留学センター「しまね留学合同説明会」に初参加 ～以降毎回参加
- 平成28年12月 大田高校 総合的な学習（探究）の時間「地域探究学習」開始 ～現在
- 平成29年 3月 大田市教育ビジョン基本計画策定
大田市統一カリキュラム「子どもの育ちと学びのめやす」策定
- 平成29年12月 おおだ教育フォーラム開催
- 平成30年 3月 大田高校 総合的な学習（探究）の時間「DAIKOU HOUR」開催 ～以降毎年開催
- 平成30年 4月 大田市教育委員会総務課に教育魅力化推進係を新設
福本派遣社会教育主事が大田市に着任
- 平成30年10月 おおだ共育共創ラボ創設
- 平成31年 1月 おおだ教育フォーラム開催
- 平成31年 4月 大田市教育委員会学校教育課が新設。
教育魅力化推進係を総務課から学校教育課に移設。
岡田プロデューサーが着任（瀬摩高校コーディネーターと兼務）
小中高連携担当の新コーディネーター着任
- 令和 元年 6月 大田高校 地域みらい留学説明会に参加（令和2年度 県外より1名入学）
- 令和 元年 7月 令和元年度 第1回大田市内県立高等学校支援連携協議会開催
- 令和 元年10月 瀬摩高校担当の佐々木コーディネーター着任
- 令和 元年12月 大田高校 コンソーシアム設立プロジェクトチーム立ち上げ
- 令和 2年 2月 おおだ教育の日フェスタ開催
- 令和 2年 3月 令和元年度 第2回大田市内県立高等学校支援連携協議会
（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。書面のやり取りに変更）

おわりに

報告書はいかがでしたでしょうか。「教育魅力化ってイメージわかなかったけど、こんなことしてたんだ」と思っていただけで嬉しいです。「でも、まだイメージわかないな」という方は、ぜひ直接会って話しましょう！

また「共創を生み出す」とのテーマは感じていただけただけでしょうか。コーディネーターたちが、学校・行政・地域の枠を飛び越えて、多様な人々をつなぎながら、この「おおだ」でできることを模索している雰囲気が少しでもお伝えできたなら幸いです。そして、ぜひこれを読んでいただいた「あなた」も一緒に、これからの「おおだ」の教育について考え、何か行動にうつしていければとても嬉しいです。

教育魅力化、ぜひお問い合わせください！

- ・コーディネーターとちょっと話してみたい
- ・事例について詳しく聞きたい
- ・子どもたちのために、何かできることあれば協力したい
- ・教育魅力化事業と何か連携できるかもしれない

などなど、この活動報告書を読んで気になったことが少しでもあれば、ぜひ気軽に教育魅力化推進係までご連絡ください。より多くの人たちと連携しながら、子どもたちが育っていく場をつくっていければ嬉しいです。まずは、「こんな関わり方ができます！」という紹介を以下に掲載させていただきます。単なるお手伝いに止まらず、一緒に大田市の子どもたちの笑顔をつくっていきましょう！

高校生の活動をサポートしたい人募集

活動名 : おおだ共育共創ラボ
活動場所 : 大田高校・邇摩高校・他
活動内容 :
高校の放課後の時間を使って、高校生が地域の大人と話し、何か一步を踏み出す活動です。大人の会もあります。ぜひあなたも一步踏み出してみませんか。

山村留学のボランティア募集

活動名 : 短期山村留学のボランティア
活動場所 : 山村留学センター・他
活動内容 :
夏休み等に行う自然体験のボランティアを募集しています。高校生～一般の方まで、子どもや自然体験が好きの方はぜひ。まずはお問い合わせください。

中学生の職場体験にご協力いただける事業所募集

活動名 : 市内中学校職場体験
活動場所 : 各事業所
活動内容 :
中学生が職場体験に伺います。受け入れてくださる市内事業所を募集しています。

※R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し中止を検討中ですが、次年度以降も実施する予定ですので、お問合せお待ちしております。

「共創」を生み出す

大田市教育魅力化プロジェクト令和元年度活動報告書

令和2年3月31日発行

発行元・問い合わせ

大田市教育委員会 学校教育課

教育魅力化推進係

TEL 0854-83-8179

o-gakkou@city.ohda.lg.jp

〒694-0064 大田市大田町大田口 1111 番地



Facebookでも情報発信中

<https://www.facebook.com/ohda.kyouiku/>